

掲載新聞社 一覧

室蘭民報・東奥日報・山形新聞・岩手日報・茨城新聞・上毛新聞
千葉日報・伊勢新聞・北國新聞・京都新聞・神戸新聞・愛媛新聞・長崎新聞
南日本新聞・沖縄タイムス・琉球新報・←共同通信のサイトでの掲載

新聞社での掲載

福井新聞・秋田魁新報社・デーリー東北新聞社・下野新聞・河北新報
岐阜新聞・宮崎日日新聞・熊本日日新聞・高知新聞・佐賀新聞・山陽中央新報
山陽新聞・山梨日日新聞・産業経済新・四国新聞社・信濃毎日新聞・新潟日報社
神奈川新聞社・西日本新聞・静岡新聞・中国新聞・中日新聞・徳島新聞
日本海新聞福島民報・福島民友新聞・北海道新聞・大分合同新聞社
赤旗新聞・聖教新聞



フォトエッセイ

東北の いま

写真・文 坂部 淳二 部

石巻の小中高生500人「ありがとう」の大合奏LIVE



2月5日。空は青々としていて、高く抜けている快晴。前日に降った雪が道路脇に残っているけれど、陽射しが温かい。すれ違う学生たちは、「おはようございます」と笑顔で気持ちよく投げかけてくれ、こちらも自然と言葉がもれる。

この日、石巻市内にある高等学校の体育館に、小中高生500人が集った。石巻、女川、東松島の子どもたち。支援してくれた日本全国・世界各国人たちに向けて「ありがとう」を歌う。

被災直後の支援では、生命に関わること——食べ物や住む場所の確保などが優先される。当然、音楽は二の次にされたもののひとつ。でも、「だからこそ、子どもたちがもう一度音楽を奏でたいと思ったときに、手をさしのべられるように」と自身・音楽家の曾根哲夫さんは全国の有志から楽器を集める絆プロジェクトを震災後に立ち上げた。

絆プロジェクトがこの日の「ありがとう」を企画したのは「子どもたちが気持ちを出せる場を作りたいから」。もう一つは、

楽器を送るなどで支援してくれた人たちに感謝を伝えるには「子どもたち自身が奏でる音楽を届けること」だと思ったから。

会場には大型の照明やクレーン、ビデオカメラなどの撮影機材が入っていた。この日の合奏をUstreamやニコニコ動画でライブ放送するための。曲は、Mr.Children「かぞえうた」、唱歌「故郷（ふるさと）」、いきものがかり「ありがとう」の3曲。

学校単位で練習してきたものの、500人が合わせるのはこの日が初めて。石巻地区の吹奏楽祭の昼の時間を使うということもあり、数回のリハーサルでオンエアの時間を迎えた。生徒たちの顔に緊張が見える……。

指揮者の合図で、クラリネット、フルート、ホルン、ユーフォニウムが柔らかな音を奏で始め、それにトランペットとトロンボーンが力強さが加わると合唱が始まった。

合わせる時間があまりなかったことも、緊張のせいもあると思う。リハーサルの時よりも声が少し小さくて、隣の人の声を遠慮がちに探っているようにも聞こえた。で

も、それが曲が進むにつれて声が少しずつ合っさっていくのが、声が出始めてきているのがわかる。1曲目が終わり、2曲目が終わり、そして、最後の「ありがとう」では一人一人の声に自信のような、誇らしいような気持ちが乗り、調和する。「ありがとうって言葉をいまあなたに伝えるから——。表情は一人一人もちろん違う。でも、3曲の15分で、少しこぼっていた顔が、今ここで歌っていることを実感しているような顔に変わっていた。

この合奏のライブ配信の閲覧者は一万人を越えた。今回の合唱についてある中学の先生が「子どもたちの表情を見ましたか？ これがいま私たちが支援してくれた方々に伝えられることです」と誇らしげに笑った。

「石巻の小中高生500人「ありがとう」の大合奏LIVE」
2/5日 13時20分～14時：USTREAMで生中継
録画動画をWEB上で観覧できます
URL: <http://www.ustream.tv/channel/izuna-project1>
企画・運営：NPO法人 絆プロジェクト
制作：株式会社前田屋
PR協力：ヤフー株式会社/復興サポートメント
撮影協力：ソフトバンクモバイル株式会社